

廃棄物の中間処理について



正和会
仲間 正司 議員



粗大ごみについて

質問 自身で粗大ごみを外へ出せない住民への搬出支援及び今後のサービス向上の取り組みについて伺う。

市長 自身で粗大ごみの搬出が困難な方については、有料で搬出サービスを行う福生市シルバー人材センターや市の粗大ごみ収集委託業者を市ホームページやごみ・リサイクルカレンダーで紹介している。

不法投棄について

質問 不法投棄は社会問題となっているが投棄されやすい場所、ごみの種類、発見後の対応と対策を伺う。

市長 不法投棄されやすいのは、人目につきにくい場所や既にごみが捨ててある場所等である。ごみの種類は、電化製品をはじめ家具類や自転車、タイヤ類等様々である。公共用地では、原則、市が速やかに現場

確認を行い、撤去を促す警告の貼り紙を一定期間掲示した後に回収する。一方、私有地や私道では、土地所有者や管理者が対応する。対策として、公共用地では不法投棄抑制の看板設置等、不法投棄されにくい環境づくりを行っている。私有地では、侵入防止策を講じることや草刈り等、清潔の保持に努めていただくことなどを市広報等により周知している。



▲不法投棄注意喚起のポスター

泡消火薬剤の漏出について



公明党
原田 剛 議員



質問 本年1月25日及び26日に、横田基地内売店(PX)の物販搬入口で起きた泡消火薬剤の漏出について、本市に対する情報提供の有無及び、本市の対応について伺う。

市長 11月3日の報道を受けて、北関東防衛局に対し、事実関係を明らかにするよう申し入れたが、詳細な内容や事実関係について米側に確認しているとして、現在のところ情

報提供はない。引き続き東京都や横田基地周辺自治体とも連携し、対応していく。

小中連携教育について

質問 小中一貫教育分離型ともいわれている小中連携教育に対する本市の所見を伺う。

教育長 本市では、毎年継続的に取り組んでいるもの、イベントとして単発的に行うものなど、全ての中

学校区において小中連携の取り組みが進められている。また、幼保小連携の取り組みや、いじめ防止サミット等、本市小・中学校と都立高等学校の連携も行っており、幅広い範囲で連携教育を進めている。今後とも、全ての児童・生徒のよりよい学びに資するよう、小中連携教育・小中一貫教育の充実に向けた取り組みを進めていく。



▲いじめ防止サミットの様子

ヤングケアラーへの支援について



正和会
小林 貢 議員



質問 子どもらしく育ち、意思が尊重されるという子どもの権利が守られていない状態のヤングケアラーを一人でも多く早急に救い上げなければならないと考える。本市におけるヤングケアラーへの支援の現状や調査、具体的支援内容について伺う。

市長 ヤングケアラーは、子ども自身や家族に認知してもらうこと、また、表面化しにくいいため、周囲の

大人が理解を深め、これまでとの違いに気づくことが重要である。本市では、夏季休暇に入る前に児童・生徒自身の気づきを促す文言や相談場所を記したチラシを学校を通じて配布し、周知を行っている。また、子ども家庭部を始めとし、西多摩保健所、立川児童相談所、福生警察署、福生市教育委員会、福祉保健部、民生委員・児童委員協議会など多くの

関係機関で組織する要保護児童対策地域協議会において、ヤングケアラーの状態にある児童・生徒を含め、要保護児童等の早期発見及び支援、見守りなどを行っている。具体的支援内容及び連携については、個別の状況に応じ各関係機関と連携し、必要な支援に当たっている。調査は、国や東京都の報告を基に状況を踏まえた上で検討していく。



化学物質の影響から健康と環境を守る取組について



生活者ネットワーク
三原 智子 議員



質問 現在、化学物質過敏症の患者が増加傾向にある。公共施設総合管理計画等が進む中、患者に配慮した検討が必要と考える。公共施設での化学物質への環境配慮について、本市の現在の取り組み状況と化学物質過敏症の方への対応について伺う。

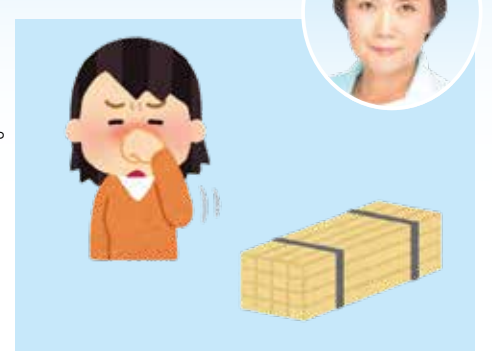
市長 公共施設の新築・改修工事に使用する建材は、揮発性有機化合物による健康への影響に配慮し、か

つ石綿を含有しないものとし、ホルムアルデヒドの放散量が最も少なく安全性が高い「エフ・フォスター」の使用を定めている。また、工事完了後には室内空気中に含まれる化学物質の濃度測定を実施し、ホルムアルデヒド他4つの物質について基準値を下回ることを確認の上、使用を開始している。化学物質過敏症の方への対応については、現在のと

ころ公共施設の利用に際して健康被害の相談や要望がないため、特段の対応は実施していない。

質問 先進自治体の具体例を伺う。

企画財政部参事 熊本市の熊本城ホールでは、授乳室、一部の会議室等を「からだに優しい内装材」と称し、仕上げ材や接着剤を天然素材を原料とした製品に変更し、化学物質の少ない空間を提供している。



こども食堂について



日本維新の会
西尾 壽々斗 議員



質問 全国的に広がりを見せているこども食堂に対する本市の考えと支援の取り組み状況を伺う。

市長 子どもの居場所づくりの緊急性と重要性が増している中、様々な地域で各地域のニーズや特性を踏まえた多種多様な居場所づくりの実践が行われており、その代表的な取り組みとしてこども食堂がある。本市では、令和5年度より地域の子ど

もや保護者等が気軽に立ち寄り、食事を取りながら相互に交流を行う場を提供するこども食堂の取り組みに対し、経費の一部を補助する「福生市こども食堂支援事業補助金」を創設し、安定的な実施環境の整備や運営等に関する支援を開始した。現在、2つの団体がこの補助金を活用しているが、その他にもこども食堂に関する相談を数件受けていることから、

今後さらなる広がりがあるものと考えている。こども食堂には、子どもの居場所や子育て支援、孤食対策、食育、地域拠点・世代間交流などのほか、早急な対応が必要な子どもへの支援につなげる役割なども期待される。本市として、市内のこども食堂が円滑に運営されるよう、今後も団体等に対して適切な支援を行っていく。

